

# 電子機器事業

コアビジネスとキャッシュカウビジネスの両輪で大きな成長機会

主要製品

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 電子デバイス<br>(液晶用LEDバックライト、センシングデバイス等) | ステッピングモーター<br>DCモーター<br>エアームバー(ファンモーター) |
| HDD(ハードディスクドライブ)<br>用スピンドルモーター      | 精密モーター<br>特殊機器                          |

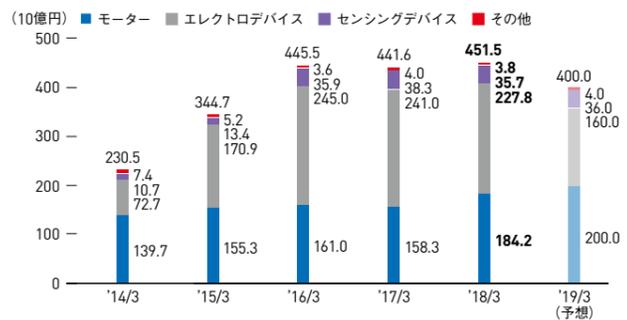


## 2018年3月期の概況

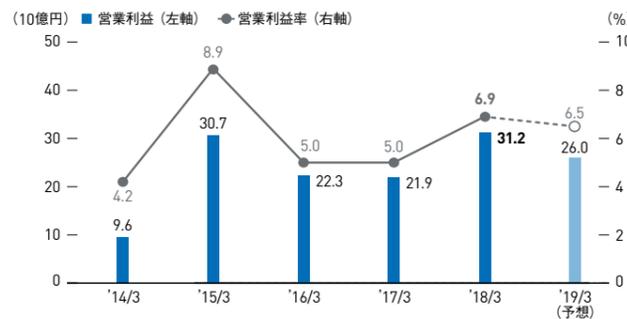
電子機器事業 ハイライト

|                                      |                                       |                              |                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------|
| 売上高構成比<br><b>50%</b>                 | ROIC<br>約 <b>17%</b>                  | 多数のニッチ領域で<br><b>No.1</b> シェア | 拠点戦略<br><b>拡大</b><br>スロバキア工場など        |
| グローバルな<br><b>R&amp;D</b><br>世界5拠点で推進 | ハイエンドLCDスマホで<br><b>圧倒的</b><br>業界プレゼンス | 製品ポートフォリオ<br><b>拡大中</b>      | 成長をドライブする<br><b>技術革新</b><br>自動車のEV化など |

売上高



営業利益/営業利益率



\*2018年3月期までは日本会計基準、2019年3月期予想はIFRS

## 当期の概況

売上高・営業利益ともに過去最高を更新

液晶用LEDバックライトは、主要顧客最終製品の販売数量減少の影響はあったものの、当社の超薄型LED液晶用バックライトに対する需要は依然として堅調で、当初の計画を上回って推移しました。また、高度な品質と耐久性が要求される自動車向け液晶用LEDバックライトは、引き続き安定的に成長しました。ステッピングモーターをはじめとするモーターは、自動車向け及びOA機器向けを中心に好調に推移しました。当期から電子機器事業に移管したミツミ事業のモーターも、安定的に収益に貢献しています。一方、センシングデバイスは一部製品の需要動向により、足踏みとなりました。

この結果、売上高は4,515億円、営業利益は312億円と、いずれも過去最高を更新しました。

## 来期の見通し

コアビジネスの力強い収益貢献

液晶用LEDバックライトは、ハイエンドスマートフォン向け

の超薄型導光板等の高付加価値製品の供給を継続し、今後拡大が見込まれる自動車向け製品の売上を伸ばします。ステッピングモーターをはじめとするモーターでは、さらなる品質の向上と原価低減に努め、自動車・サーバー向け等の高付加価値製品の拡販を進め、業績の向上を図ります。

## 7本槍戦略(電子機器事業)

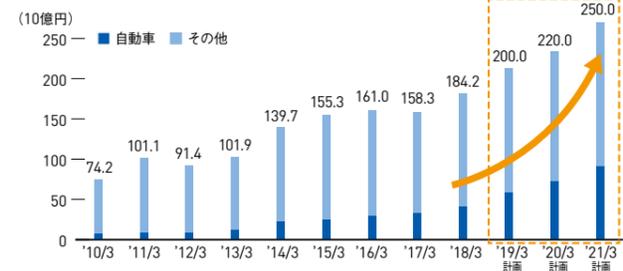
### 7本槍戦略の② モーター

車載に注力して大きく成長

モーターの売上高は、今後3年間で年率10%以上の成長を見込んでいます。収益面でも大きく成長し、すでに当社の第2の柱として強固な基盤を確立しました。成長を大きくけん引しているのは自動車で、モーター全体の売上に占める自動車向けの比率は年ごとに上昇し続けています。

強い需要動向を受けて、自動車市場向けの開発及び生産体

モーター事業売上計画



制の強化を積極的に進めています。生産面では、2018年6月に自動車用モーターを中心とするスロバキア工場が操業開始しました。また開発面では、2018年内に上海近郊にモーターを中心とする車載製品の開発に特化した中国テクニカルセンターを開設する予定です。

このように、車載に注力することで今後も大きな成長を見込んでいます。

### 7本槍戦略の③ センサー

ひずみゲージとMEMSセンサーを中核に事業を拡大

7本槍の製品群で唯一、ミネベア事業とミツミ事業のそれぞれが強みを持つ製品で、モバイルや自動車といった既存のアプリケーションに加え、ウェアラブルやロボティクス等に向けて、さまざまな事業機会が期待されます。感度・安定性・疲労寿命に優れたひずみゲージと、半導体製造技術を応用したMEMS技術という、アプローチが異なるそれぞれのセンサーを中核に、IoTの重要部品としての事業拡大に取り組んでいきます。

## 未来へ向かって

コアビジネスとキャッシュカウビジネスの両輪で持続的な成長へ

電子機器事業は、キャッシュカウビジネスである液晶用LEDバックライトから創出される利益を、コア事業であるモーター及びセンサーの基盤強化に向けて再投資し利益を最大化させることが、基本戦略となります。

ハイエンド液晶スマホにおいて、市場での圧倒的なプレゼンスを誇る液晶用LEDバックライトは、さらなる原価低減とともに、業界のトップランナーとして最先端の技術開発を行い、事業機会を創出していきます。

モーター及びセンサーは、コア事業として長期安定的な成長に向けて、ポートフォリオの拡充や他の7本槍製品との相合による新たな事業領域の開拓を行います。

その一例として、このたびフィルム型高感度ひずみゲージ

「ミネージュ™」を新規に開発しました。これは、既存のひずみゲージより感度、サイズ、耐久性などの特性を大きく向上させた革新的な製品で、ゲージ部分を担うミネベア事業と、アナログ半導体部分を担うミツミ事業のシナジーにより誕生しました。今後、自動車、モバイル・ウェアラブル、ロボティクス分野等の幅広いアプリケーションへの採用が期待され、電子機器事業のさらなる飛躍に貢献していく見込みです。

●フィルム型高感度ひずみゲージ「ミネージュ™」主要ターゲット市場



センシングデバイス事業の飛躍的成長へ